

HSK NPO 法人「文福」ニュース

# 「障」ちゃん



NO.249

## 冒頭の一言

障ちゃん肉

年も明けてもう2月です。いつまでもお正月気分ではられません(泣)今年の冬は雪が降らないんですかねえ。全くまーったく降りません。いや、数回は降ったのは覚えているけども、積もるほどではないわけで。スタッドレスタイヤが減っていく一方です。はっきり言って勿体ない。これは早めにノーマルタイヤに履き替えるべきなのか…とか本気で思ってしまいます。外出しやすいのは良いのだけれども、そして降ったら降ったできっと文句を言うに違いないのだけれども。

さて、愚痴はこのくらいにして、今号は偶然にも昔と今を比べられるような原稿が並びました。時代は移りゆくもの。人によって善し悪しは違うけども、良い方向へと進んでいてもらいたいものです。まあ、それこそ良くするのもその逆も決めるのはその人自身なのでしょうが。

### —もくじ—

冒頭の一言 … 1	バリアフリー新鮮組 … 2-3	植松被告の公判始まる … 4-5
お料理の会報告 … 6	ボッチャお知らせ … 7	
こんな夜更けにバナナかよ 感想 … 8-11	連続学習会案内 … 12	
運営会議報告 … 13	今後の予定 … 14-15	ありがとうコーナー … 16

HSK 毎月一回(一、三、五、八、一〇、一三、一五、一八、二一、二三、二五、二八日)発行

## バリアフリー新鮮組

日下 正秀

昨年は日本の障害者にとってかなり大きな動きがあった。参議院選挙によって 24 時間介護を必要とする最重度とされる障害者 2 名が国会議員となった。国会の入り口はもとより、議員会館、会議場への入り口や議員席、廊下やトイレ、国会内の衆議院側を除く隅々までのバリアフリー化が当然のこととして行われている。これは単に議事堂内の設備だけの問題ではなく、全国津々浦々の誰もが使用し、出入りする公共の施設や建物、民間の店舗や宿泊施設といったものにも影響を与えていくと思われる。ハード面だけではなく、「障害者支援法」では現在認められていない通勤や就業中の介護を認めた法律に改めるべきではないかと彼らは訴えている。これらの設備や制度の問題点は昨日今日起こったことではなく、全国各地の障害者達がずっと訴え続けてきた事柄である。昨年富山で新幹線の切符を駅の窓口で買い求めようとした障害者が、「窓口では売れない、事前予約をしてくれ」と言われ、もう一回切符を窓口に取りに来るように言ったり、当日に乗車する用事があっても切符は売れないといった対応に対して、JR 西へ抗議文を出したということがあった。この事は富山だけではなく、全国各地で起こっている。同様の内容を障碍当事者の議員から問いただされて、例の国土交通大臣の「JR はけしからん！」答弁が出てきた。慌てた JR 各社が車椅子対応座席の増設や出入口や通路の幅の広い車両の新設や増設等の方針や計画を次々と発表しだした。政治は確かに侮れないとは思いうし、国会議員の立場の影響力が強いということは分かる。しかしそれは、全国津々浦々の場所でそれぞれの障害者達が感じて

きたやりづらさや生きづらさから出てきた考えや要望が議員を介してやっと直接国会に届いたということであって、本当に変わっていくのはこれからということだと思う。現に参議院のトイレの工事は法律の問題などで工事業者が見つからず、足踏み状態らしい。国会のバリアフリー化は頑張って進めていってほしい。昔から私達は金さえあればなんでもしてやる等と散々言われ続けて、誰でも使える交通機関やエレベーター、洋式トイレ（多目的トイレ）等の設置や普及を訴え続けた。また、障害者の自立生活を保障する所得保障制度といったものを要望したり提案をしたがすべて金がないで終わらされていた。でも、曲がりなりにも車椅子対応の路線バスが走り始め、究極のばら撒き政策と言われる全国民対象の一定金額を支給する「最低所得保障」が実験的に試みる「国家」が現れだしていることをみると、今まで全然実現してこなかったのはお金がなかったからではなく、やる気がなかったということの表れだろうと思う。あの党の肝の党是は解からないが、立候補者のメインを重度障害者に絞ったのは戦略からであって、結果がすごく効果的だった。ということ言い方は悪いが障害者の「有効利用」だと思う。選挙当日投票した人達はたぶんマンネリ化した他党の候補者に飽き飽きしていたのだ。バリアフリーといったことに関心を持ったというよりも新鮮な発想や登場人物に興味を持ったのだろう。慶応年間の「新選組」は刀を振り回して暴れたけども、令和の「新選組」は車椅子を振り回して暴れている。これは真の「新“鮮”組」だと思う。



## 植松被告の公判始まる

八木勝自

去る 1 月 8 日に 2016 年の神奈川県はやまゆり園で元施設職員が乱入して 19 名の障害者を残忍な手口で大量殺戮した植松聖被告の初公判が開かれました。

私はこの紙面でも植松被告が何故こういった事件を起こしたのかなど書いてきましたが、植松被告にとって見落としていたことがあるので去年の 9 月 8 日植松被告の拘置所に一緒に接見に行った北日本放送テレビのニュースキャスターなどをやっている武道さんに次のようなメールを送りました。

### ●八木が送ったメール●

八木です。

私は植松被告のことで見落としていたのですが、植松被告が私のことをただ単に「障害者が殺されて文句を言いに来た障害者がいた」という程度の認識だと言うことが澤さんの送って来た雑誌の「創」の写メールでわかりました。

私としてはとても心外です。私は植松被告が何故あのような悲惨で残忍で残酷な事件を起こしたのかということ和社会の責任と個人に責任を追求しているつもりです。武道さんが大変忙しいことはわかっているつもりですが、一度相談したいことがあるので、時間の都合をつけて私の家にでも来て下さい。よろしくお願いします。

そのメールの返事は次号に載せるかもしれませんが、その初公判があった日に私に北日本新聞のインタビューを受けてそれが次の日の記事になってその記事が一般の人にもわかりやすいと思うので、下記に載せます。私はこの問題だけをやっているわけではありませんが、皆さんが下記の記事を読んでどう思ったか意見や感想を聞けたらなと思っています。

相模原殺傷 植松被告と接見・手紙



接見した植松被告の印象を語る八木さん(北日本新聞社)

# 犯行許せない 過ち気付いて

重度障害者 八木さん(富山)

障害者の自立支援施設で行った殺人・強盗・理事長で、自らも重度障害者の八木勝彦さん(富山)は昨年、相模原市の障害者施設で入所者ら4人が殺傷された事件で殺人罪などに罰せられた植松被告(20)と手紙をやり、昨年9月に横浜拘置所で接見した。「犯行は絶対に許せないが、死刑には反対。裁判を通じて過ちを気付かせたい」という八木さん。8日に始まった公判の行方を見守っている。

八木さんは1歳の頃、はしかが原因で重度の脳性まひとなった。3歳の時に入所していた施設を出て、今は介護を受けながら1人で暮らす。口はくわえただけでタブレット端末を操作し文章も書く。

事件から3年となる昨年7月26日にあわせ、植松被告に初めて手紙を書いた。昨年9月までに3通を送り、被告からも返信がきた。

「意思疎通のできない人は殺した方がいい」との主張を繰り返す被告に対し、八木さんは手紙で自らを「意思疎通のできる重度障害者」と紹介した上で、犯行は「絶対に許されるべきではない」と断った。「意思疎通のない障害者は人間は生きていくだけで大切な存在」と教えた。自分自身で罪を償って」と悔い謝ったが、被告からの返事は「意思のない重度障害者は安楽死すべき」と従来の主張が繰り返されていった。

接見が実現したのは昨年9月6日。被告は「想像していた以上に、まじめな好青年だった」という。だが、八木さんの思いは届かなかった。「一人には人を殺す権利はない」と断りつける。あの一意疎通のできない人たちは人間じゃない」と断言。「それは差別だ」と書くと、「区別です」と書えたという。

8日に始まった公判で、弁護側は被告の心神喪失を主張したが、検察側は「利はない」と断りつける。今回の事件は、遺族の要望で被告の罪名は公表されず、裁判も匿名で審理が進む。八木さんは「これに賛成する。被告者は植松被告に殺され、さきに罪名とされることで社会から抹殺された障害者として」

植松被告から八木さんに届いた手紙

植松被告

2020年1月11日

北日本新聞

「接見したが、意見を述べて後悔は自分では正しくして来たと思っている。その考え方は間違っていたが、正義をやった犯行だ」と感じたという。

今回の事件は、遺族の要望で被告の罪名は公表されず、裁判も匿名で審理が進む。八木さんは「これに賛成する。被告者は植松被告に殺され、さきに罪名とされることで社会から抹殺された障害者として」

「怒りを感じると、悲しい」と訴える。

事件後、インターネット上で被告の考えに同調する人が現れ、差別の助長につながりかねない論議を感じている。「重度障害者も価値がある」と認めてほしいし、そのためにも障害者はもっと社会に出て声を上げるべき、それが当たり前の社会にならなければ」と願っている。

（社会部・室利枝）



## お料理の会報告

去る2019年12月14日に「お料理の会」をしました。日程的にクリスマスが近いですが、メニューはクリスマスではなく、お正月も近いというのもあり、おせち料理にしました。いつもはA班B班の2班に分かれて作るのですが、今回は班分けなしで皆で手分けして作ったのが、いつもと違うところでしょうか。皆で作った料理を、用意した各自のお重に好きに詰めて食べるという形でした。お重も黒と赤の2種類から選び、金色と銀色のマジック2種類を使ってデコレーションして自分専用のお重を作ったりとなかなか面白かったです。

参加者は13名だったのですが、それぞれ個性豊かなお重が出来上がりましたが、洗う段になり、スポンジでこすったらそれらの模様が消えるというアクシデント?もあり、そんなところも楽しい一幕でした。(個人の感想です)

料理は当初持ち帰りも検討はしていましたが、ほぼその場で食べまして、お重をお正月に向けて各自持ち帰りました。僕の家ではそれがお正月に勝手に使われていたのは余談です(笑)でもなにかこう、残るといのは良いものですねえ。こう思うのは歳をとったからかもしれませんが。

うん?なんか報告というか感想文みたいになってしまいましたが、なかなか楽しい一時だったということで今回の報告?いや感想を終わりにしたいと思います。

夢宙人企画を今後とも宜しくお願いします。

Muchu 6 Cup



# ポッチャ

## DE あそぼっチャ!

3月14日(土)

13:00-17:00

※休: 2/25(月)

17:30~ 交流会あります  
交流会は1000円です。

参加費  
100円

(保険代等)

開催場所

富山市障害者  
福祉プラザ

(富山市蛸川)

持ち物

タオル・内履き  
飲み物など

動きやすい服で来てね

現地集合  
現地解散

13:00 自己紹介  
ルール説明

13:40 試合開始

17:00 試合終了

試合は、団体戦で行います。  
初めての人も歓迎なので、  
楽しめる「ポッチャ」を一輪  
に楽しみましょう。

### ポッチャとは

ポッチャは、どれだけ多くのボールを的(ジャックボール)に近づけられるかを競う競技。パラリンピックでは重度の脳性まひ者の競技となっているが障害を持つ、持たないの区別なく楽しめるわかりやすさと、作戦次第でそれまでの結果がひっくり返る面白さを併せ持っています。本来障害者が楽しむスポーツとされていますが、参加者皆で楽しんでえ！っことで、障害者・健常者混合チーム(2人編成)の団体戦を行います。

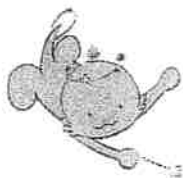
主催: 夢宙人 (むそうじん)

☎930-0887 富山市五福3734-3

☎/📠(076) 441-6106

✉muchu.jin.55@gmail.com

🌐http://blog.goo.ne.jp/muchu-jin



文福では、毎月第3木曜日の午後に「オープン派遣会議」を行っています。この会議はスタッフ・アルバイトの方が自由に参加できる場となっています。

昨年12月19日に、映画「こんな夜更けにバナナかよ」のDVD上映会を行いました。

DVDを見られての感想を2名の方からお寄せいただきましたので、掲載します。

## 「バナナ」見ましたっ！

日下 正秀

去年の12月の第三木曜日、文福事務所で「こんな夜更けにバナナかよっ！」のビデオ観賞会があった。余計なことを言ったばかりに鑑賞報告を書くことになってしまった。

私は原作を十年以上前、流行ってから少し間を置いたころに読んだ。北海道の進行性筋ジストロフィー（筋萎縮性側索硬化症）の兄ちゃんが北大のボランティアサークルに食い込んで、若い医学生中心のボランティア組織を立ち上げ障害者と若い介護者たちとのあつれきや交流を描いた話。24時間介護体制を独自に築く中で、ボランティアの学生らをなだめたりすかしたり時には強引とも言える接触の仕方ですた生活を築いている。やる気のあるメンバーはもとより、疑問や反発、無関心な学生らに向って、今で言えばパワハラとも思える指示や懇願といったあらゆるコミュニケーション上のテクニックを使ってボランティアサークルを維持し、時にはメンバーにちょっと強引に引き入れたお姉ちゃんにアタックしたり、甘えたりとか主演の大泉洋の演技力でカラッと面白く仕上がっている映画だった。私の感覚では名優・名演技と言われるような作品を観ても、障害者が主人公となっているものや（まあ脇役でもいいんだけど）、障害者の役を健全者の役者がやるということにどうも違和感を感じてしまう。いくら名画の誉れ高い「レインマン」のダス



ティン・ホフマンや、「道」のジュリエッタ・マッシーナ、「裸の大将」の芦屋雁之助などは、なんかやっぱり嘘くさい。障碍当事者が役者になって役をやればすっきりするのになあと言ったら、役者の仕事を否定することになっちゃうか？どうせなら徹頭徹尾笑い飛ばしちゃったほうが気持ちがいいのに、と言いたくもなる。映画の中で死んだふりをして介護スタッフ皆をだますなんぞは、一度やってみたいものだと思心させられた。実際やったら介護スタッフから一斉に介護拒否されそうだ。

自立生活の描写は学生らが不必要に同時に 5 人 6 人群れを成して狭い部屋の中にいるのはちょっとリアリティがないと思った。でも喜劇だと見逃してあげられないなあ、という感じで見ていた。映画の中で身につまされることがあった。主人公が何かが原因で肺炎になり自力呼吸できなくなって、人工呼吸器を付けないと死んでしまうと担当の主治医に宣告されるという恐ろしい場面だ。人工呼吸器を装着すると、喉に穴を空け喋れなくなる。それはしゃべることで、ボランティア達に指示することで生活を成り立たせている者にとっては、ほぼ「死ねっ」と宣告されたようなものだ。口での発語ができなければ、口を使わずに喋るしかないのだが、私も 7, 8 年前にこれとそっくり同じ状況に陥り、担当の医者が手術の実績を積み上げることに目がくらみ、夜中じゅう手術しないと命がないと脅迫され続け、それに耐えて自分の喋り言葉を守ったという経験がある。映画では人工呼吸器にしてしまって、口を使わないで空いた喉の穴の呼吸の仕方喋り言葉を獲得し、通常の言葉のやりとりが出来るようになったことから、まあそこは明るい映画だから突っ込んで仕方がない。映画の医者は最終的には手術しちゃったことから、病院からは絶対出られないと言っていたけれども、本人の強い意志や喋りを獲得したことで、元の自立生活に復帰することを黙認した。小説もそうだったが、ワガママな主人公が亡くなって良かった良かったという風にもとれる終わり方で、少々納得いかないものがある。とは言ってもこの映画の時代背景は、1970 年代から 90 年代にかけての障碍者施策が隔離中心の措置制度から地域移行の支援費制度に移行していく過程の話だからこういった障碍

者観は仕方がないのかもしれないが、ちょっと懐かしい写真を見ているような気分させられた。

感想とご報告まで。

## こんな夜更けにバナナかよ。

福田 文恵

この物語は 1970 年代から 90 年代にかけて、北海道で日本で初めて人工呼吸器をつけながら自立生活運動をやり遂げた鹿野靖明さんが主人公である。

鹿野さんは進行性筋ジストロフィーという障害で筋肉が徐々になくなり、呼吸も出来なくなり亡くなります。

昔は二十歳まで生きられないと言われていましたが、医学の進歩により今では人工呼吸器をつけながら 40、50 代の方も生活しておられます。

遺伝病と言われていて多くの方は男性に発症すると言われていますが、女性の方も発症しますが進行の速度が違うみたいです。

私の同級生の女性の方が同じ障害だったのですが、42 歳まで生きておられました。結局肺炎で亡くなりましたが、人工呼吸器をつけていれば今も生きておられたかと思います。

話は元に戻りますが、映画は美化されすぎの現実とは遠く離れたものになっていました。けれどまだ障害者の制度が全く整っていなかった時代の背景などは懐かしく思いました。

私は再版本を読みましたが、その中で渡辺一史さんというルポライターの方が鹿野さんの生活の中に入り長年に渡り介助をしながら書き上げたものです。

映画ではほぼ鹿野さん目線でしたが書籍では渡辺さん目線なのでほぼ介助者目線で書かれています。

映画では鹿野さんの生活の場面で女子学生 4 人くらいで風呂介助のシーンや映画の題名でもありますが、夜中にバナナを買わせに行くところとか、今の時代であれば事業所に苦情が殺到すると思われる場面がいくつも出て

きました。今の時代だったらパワハラ、セクハラと言われるものがいっぱい出ていて、当時は良いか悪いか分かりませんが、つくづくすごかったんだなあと思いました。

私も自立生活運動を始めた時はボランティア集めからの活動をしてきましたが(先輩たちに手伝ってもらいながらですが)、大学に行きいきなり学生さんに声をかけピラを見せながらどういうことをしているかやって欲しいかを説明し、ボランティアに来てくれないかとお願ひする日々を過ごしていました。20 人に声をかければ 1 人くらいは来てくれる時代でしたが、今は制度が逆に邪魔をしているような感じになっているのが少し残念です。

2003 年から障害者制度が支援費制度・2006 年には自立支援法 2012 年総合福祉法と制度が変わり、基本資格を持たなければ介助ができなくなりました。文福もこの制度に伴い介護人派遣事業を始めた経緯があります。

現在では総合福祉法で認められている重度訪問介護従業者養成研修を受けて資格を会得すれば、誰でも介助者になれます。

もちろん無償ボランティアを頼みながら、活動や生活を行っている方はいます。

私は今でもボランティアの時代に来てくれていた人と何らかで繋がりを持っていますが、やはり学生時代と違い皆さん色々な人生を送られています。

今筋ジスの方や ALS (筋萎縮性側索硬化症) の方たちが病院ではなく、地域で重度訪問介護という 24 時間介護が必要とされる方に適用される制度を使い、人工呼吸器をつけながら生活をされるようになってきました。すごく良いことだと思います。これで重度訪問介護がメジャーになれば良いことなのですが、現時点ではヘルパーのなり手が少なく皆さん四苦八苦している現状です。どうすればこの現状を打破できるかが今一番の課題かと思われま

す。あまり映画の感想はなかったように思いますが、現時点でも障害者が地域で暮らすということは昔と変わらず困難がいっぱいあるなあ、これで良いのかなと思われました。

## 連続学習会のご案内

さて、年も明けて、早二カ月が経とうとしています。

年明けそうそう、ちょっと暗くて重いテーマ「安楽死」になりますが、これは、生まれた以上は、どうしても避けて通れない「死」の問題です。

死に方はそんなに簡単には、選べませんね。しかし、死に方を選んだ人がいます。

私達、学習会の担当で話し合っこの「安楽死」というものを考えてみたいと思いました。これは、昨年の6月にNHKスペシャル「彼女は「安楽死」を選んだ」という番組です。



去年、一人の日本人女性が、スイスで安楽死を行った。女性は重い神経難病を患い、自分らしさを保ったまま亡くなりたいと願っていた。患者の死期を積極的に早める安楽死は日本では認められていない。そんな中で、民間の安楽死団体が、海外からも希望者を受け入れているスイスで安楽死することを希望する日本人が出始めている。この死を選んだ女性と、彼女の選択と向き合い続けた家族の姿は、私たちに何を問いかけるのか見つめる。という内容です。

みなさんと一緒に番組を観て、意見交換ができればと考えて企画しました。ぜひ、この機会の考えてみませんか？

日 時 2020年2月28日〈金〉PM7:00~

場 所 文福事務所にて

参加費 無料

担当：学習会

## 運営会議報告 2019 年 12 月 17 日現在

- 連続学習会  
今回は『安楽死』をテーマに 2 月 28 日(金)19 時から事務所で行います。
- 障害者部会  
障害者部会が NPO 法人文福の内部機関との事で、障害者部会が障害者団体として認められてないので、障害者団体を立ち上げたいという意見が出、登録するためになにが必要か確認することになりました。
- 介助・介護人派遣事業部  
12 月 19 日(木)オープン派遣会議で『こんな夜更けにバナナかよ』の映画上映を行います。
- レクリエーション部会  
12 月 14 日(土)お料理の会を行いました。参加者 13 名でした。  
1 月 11 日(土)居酒屋企画を考えています。場所は総曲輪の『わさび』で予定しています。  
2 月 11 日(火)に餅つき大会を予定しています。
- 障ちゃんニュース発行部  
12 月 22 日(日)に印刷予定です。
- まっち発行部  
18 号がようやく完成しました。次号のテーマは『幼い時になりたかったもの』で原稿締め切り 1 月末日、発行が 2 月末の予定です。
- 事務連絡  
年末年始、事務所休みは 12 月 28 日(土)から 1 月 5 日(日)までです。  
事務員の正職員が決まりました。
- 雪かきバイト  
昨年に登録してくれた 6 名が今年度も継続との事で、今年度は募集しません。
- 次回の運営会議 1 月 21 日(火)です。

報告者・中村



## ◆今後の予定◆

このコーナーでは、基本的に文福や他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

### ◎ もちつき大会

主 催：NPO法人文福

日 時：2月11日〈火・祝〉 11：30～

場 所：文福事務所

参加費：200円+α

お問い合わせ先：NPO法人文福 TEL (076) 441-6106

### ◎ 連続学習会

日 時：2月28日〈金〉 PM：7：00～

場 所：文福事務所にて

テーマ：「安楽死」について

詳細については 12ページをご覧ください。

### ◎ 「第10回 地域福祉フォーラム in TOYAMA ～地域福祉 これからの10年～」

日 時：3月7日〈土〉 9：30～17：30

交流会 18：00～19：30

夜の部 19：40～21：00

場 所：富山県高岡文化ホール 1階多目的小ホール  
(富山県高岡市中川園町13-1)

参加費：5,000円(学生は無料です。)

内 容：講演やシンポジウムで、成年後見の役割や障害福祉と子ども子育てに関する各自治体の現状などのお話があります。

お問い合わせ先：とやま地域福祉ネットワーク事務局

社会福祉法人くるみ内 坂下さん

TEL (0766) 54-5703

### ◎ 「ロービジョンケア講演会」

日 時：3月8日(日) 10：00～16：00

場 所：サンシップとやま7階

展示&相談会 10：00～16：00

日常生活用具給付対象器具・補装具等の展示

音声パソコン・スカイプ(インターネット電話)など

講演会 10：30～11：30

演題「視覚障害者に係る年金について」

講師 飯田 栄司先生（社労士オフィス・イイダ）

障害年金の請求支援を主として行っておられます。

同時開催

見えない・見えにくい人のための視覚障害便利グッズ展示&相談会

お問い合わせ先：視覚障害者ITサポートとやま（Bitsとやま）

TEL 090-2378-6944（担当：入江さん）

◎ **ポッチャDEあそぼっちゃ!**

主催：夢宙人

日時：3月14日（土）13:00~17:00

場所：富山市障害者福祉プラザ（富山市蜷川）

参加費：100円（保険代等）

詳細については 7ページをご覧ください。

◎ **「令和元年度 発達障害児者基礎研修」**

日時：3月15日（日）10:00~15:50

場所：高岡市ふれあい福祉センター 2階集会室  
（富山県高岡市博労本町4-1）

参加費：3,000円（学生無料）

講師：山口久美氏（SNOW DREAM取締役）  
福祉現場で自閉症支援を行っている方です。

発達障害の基本的な特性が学べる研修です。

学校や事業所等で、すでに発達障害の方に関わっておられる方、地域で日々、不登校・引きこもり・ゴミ屋敷等の支援に関わっておられる方に、お勧めです!!（チラシより抜粋）

お問い合わせ先：とやま地域福祉ネットワーク 事務局

社会福祉法人くるみ内 坂下さん

TEL (0766) 54-5703

◎ **くろべ工房20周年 記念上映会**

主催：くろべ工房

日時：3月21日（土）10:30~

場所：黒部市国際文化センター コラーレ マルチホール 入場無料

【第一部】「星に語りて」

2011年3月11日 東日本大震災 障害のある人と支援者の物語

10:20~12:30

【第二部】「夜明け前」~呉秀三と無名の精神障害者の100年~

13:30~14:40

お問い合わせ先：社会福祉法人くろべ福祉会

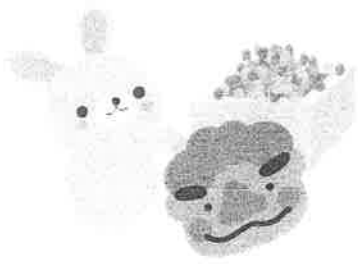
TEL (0765) 56-7284

## ありがとうコーナー

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

### 今後もよろしくお願いします。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★



早いもので年が明けて、もう1月半ばになろう  
とじています。昨年はクリスマス寒波もなく過ぎ  
て年末年始も雪のないお正月でした。今も雪らし  
い雪が降っていません。今年、オリンピック・パ  
ラリンピックがあります。それで盛り上がって  
いますね。しかし、私の周りは、イマイチそんなに実  
感として湧いて来ていませんが、みなさんは、いか  
がでしょうか？

### \* 2019 年度 新規会員・継続会員 \*

水島 俊雄さま 村山 順子さま 小倉 利丸さま

### \* カンパ \*

中川 伸俊さま 河上 千鶴子さま

### \* 物品提供 \*

坂井 由美子さま 上田 孝子さま 瀬戸 紀美子さま 温井 雅也さま

鈴木 美明子さま 西本 美絵子さま 升谷 千春さま

発行人：北陸障害者定期刊行物協会 富山市今泉 3 1 2

編集人：特定非営利活動法人 <sup>ぶんぷく</sup> 文福

〒930-0887 富山市五福 3734-3

e-mail: bunpuku@arrow.ocn.ne.jp

HP: <http://bunpuku.org/>

TEL/FAX (076) 4 4 1 - 6 1 0 6

定価 50円

※文福の会員の方は、会費に購読料を含んでいます。

一九九四年八月四日第三種郵便物承認  
HSK 第四一ニ回 (一、三、五、八、一〇、一三、一五、一八、二十、二三、二五、二八日) 発行